

技術者と学生が交流

土木遺産をテーマに会話

土木学会中部支部は13日、「土木技術者と学生の交流会」を名古屋市昭和区の名古屋工業大学で開いた。写真。学生たちが「土木遺産」として自ら選んだ土木構造物をポスターに作成。そのポスターを前に同支部のメンバーである土木技術者に選定理由や施設内

容などを披露した。社会人技術者からは技術的な質問だけでなく、その構造物が出来上がった歴史的な背景を逆に学生たちに説明するなど、学生たちと社会人技術者が楽しいひとときを過ごした。

交流会には同支部に所属する社会人土木技術者（地



方自治体、ゼネコン、コンサル、電力会社など）約30人、豊田工業高等専門学校

や名城大学、名古屋大学、名古屋工業大学の学生ら約150人の計約180人が参加。テーマは「土木遺産を巡るキミのドボク、ボクのドボク」。12の学生チームがそれぞれ独自の視点で選んだ土木遺産をポスターにし、そのポスターを囲んで現役の土木技術者や他の学校の学生たちと土木の話

のが多かった。今回は新たな試みで、企画した名古屋工業大学の北野利一教授は「土木の魅力は社会人技術者が教えなくても、学生たちには分かっている。土木分野で共通の話題を提供すれば学生たちは社会人技術者と会話が弾み、もっと土木に興味を持つはず。そこで土木遺産を共通の話題に選び、学生たちにポスターセッションしてもらった」

と、狙いを語った。最後には優良なポスターを参加者の投票で決め、1位には名城大チームの「シドニー・ハーバーブリッジ」、2位には名工大2の「旧稲葉地配水塔」、3位には豊田高専の「百々貯木場」が選ばれた。ポスター製作に携わった名城大3年生の大矢周平さんは「学校の視察でオーストラリアに行き、この構造物の迫力に感動して土木遺産に選びました。いろいろと調べて準備したのですが、橋の構造など専門的な質問もあり勉強になりました」と語っていた。

交流会はこれまで、社会人技術者が出前講座のような形で一方的に説明し、その後自由に語り合うという

最後には優良なポスターを参加者の投票で決め、1

位には名城大チームの「シドニー・ハーバーブリッジ」、2位には名工大2の「旧稲葉地配水塔」、3位には豊田高専の「百々貯木場」が選ばれた。ポスター製作に携わった名城大3年生の大矢周平さんは「学校の視察でオーストラリアに行き、この構造物の迫力に感動して土木遺産に選びました。いろいろと調べて準備したのですが、橋の構造など専門的な質問もあり勉強になりました」と語っていた。

